

# 授業づくりに関する資料 2

## 学習指導案作成のポイント

- 1 明確な単元目標の設定
  - 生徒の実態把握
  - 評価の観点
- 2 1時間の授業デザイン
  - 教員と生徒が授業のねらいを共有
  - 目標と指導と評価の一体化
- 3 ICTの活用
  - 興味・関心の喚起
  - 情報の共有



## 授業実践後の教員の意識

- 1 単元目標を設定する重要性を再認識し、生徒の実態に即した授業展開ができた。
- 2 授業構成に対する意識が高まり、生徒に授業の見通しを持たせることができた。また、評価方法について見直すことができた。
- 3 ICTを活用することで、効果的な提示ができ、生徒の学習意欲を向上させることができた。

## 学習指導案例 (高等学校)

### 〈授業のデザイン〉 p. 8

授業をデザインする際、単元全体の目標を踏まえて各時間のねらいを考えることが重要である。各時間のねらいの達成のためには、個別学習や小集団学習など指導内容に合った授業形態を取り入れたり、「見通し」や「振り返り」の場を作ったりすることが必要である。

### 〈目標・内容に基づいた教材研究〉 p. 4

指導内容の系統性を確認し、この単元で何を身に付けなければならないかを明確にすることが重要である。

### 〈ねらいの提示〉 p. 4

本時のねらいを黒板に提示するだけでなく、ねらいを達成するために行う活動の意味を意識させながら授業を進める。また、ねらいを明確にすることで、適切な評価を行うことは大切である。

### 〈ICTの活用〉 p. 16

ICT機器を用いて観察結果を提示することで、本時の学習課題をクラスで共有できる。観察・実験時のデータや写真をデジタル化しておくことで、その後の授業でも活用しやすい。

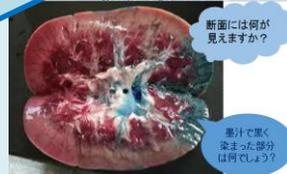
### 〈考える力の育成〉 p. 14

話し合いの中で、他の人の考えを聞いたり自分の意見を発表したりすることで、考えを深めることができる。話し合いの形態を工夫し、意見交換しやすい雰囲気を作る。

## 理科 (生物基礎) 学習指導案

学科	普通科	学年・組	2年〇組	日時		教室		使用教科書	高等学校生物基礎 (〇〇書店)
単元	生物の体内環境 (体液とその働き)								
指導目標	生物の体内環境の維持について観察、実験を通して探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識させる。			指導計画	1 体内環境と恒常性・・・1時間 2 体液と物質の輸送・・・2時間 3 肝臓の働き・・・1時間 4 体液の濃度調節・・・3時間 (本時はその3)				
本時の指導	主題 (教材) 哺乳類にみられる体液の濃度調節 前時の課題 前時に行ったブタの腎臓の観察結果を確認してくる。								
目標	ブタの腎臓の観察結果についての話し合いに積極的に取り組むとともに、考察問題を通して、腎臓の内部構造とろ過・再吸収の仕組みについて理解させる。								
指導	学習活動	時間	指導上の留意事項	評価の方法・規準等					
導入	本時のねらいを確認する。	3 (分)	・前時の観察を踏まえ、尿生成の仕組みについて学ぶことを確認させる。	・実験ノート (P. 28~29)					
	1 解剖の観察結果を振り返る。	12	・前時の内容を確認させる。 ・スケッチと解剖写真を見直すことを促す。	・パソコン、モニター解剖写真					
	2 ろ過の仕組みについて理解する。	5	・気付いたことを班単位で意見交換させる。 ・班ごとに発表させる。	【評価規準】 ○腎臓の仕組みについて関心を持ち、意欲的に意見交換している。 (関心・意欲・態度)					
展開	3 考察問題を行う。	15	・腎小体が墨汁で黒く染まった理由を考えさせる。	【評価方法】 ○行動観察					
	1 小テストに取り組む。		・理解度を確認するために、難易度の異なる問題を段階的に考えさせる。 ・ろ過と再吸収の仕組みや、老廃物の濃縮が果たす役割について理解させる。						
整理	2 本時の学習内容をまとめる。	8	・本時の内容を振り返らせる。	【評価規準】 ○腎臓の構造とろ過と再吸収の仕組みを理解している。 (知識・理解) 【評価方法】 ○小テスト					
備考	生徒数〇名								

授業で使ったスライド



### 〈ねらいと連動した「評価問題」〉 p. 18

本時のねらいに沿った小テストを行い、その場で解説を行うことで、学習内容の定着を促すことができる。小テストの分析結果は、後日の定期考査問題作成の際の参考になる。



### 〈指導内容に基づいた実態把握〉 p. 6

指導内容に関する生徒の興味・関心や学習到達状況、学習状況が不十分な指導内容とその原因などの実態把握が重要である。



〈 〉 p. 囲みは、ブックレット「分かる 考える 伸びる 授業づくりの基礎・基本」との関連を示す。



### 〈適切な発問や指示〉 p. 10

難易度に応じた設問を段階的に考えさせることで、生徒のつまづきを把握することができ、適切な発問や指示を行うことができる。そのために、教科書や市販の問題集の「例題」や「考察問題」を活用することも有効である。解答については、互いに教え合うことで新しい発見を促すことができる。また、ICT機器を用いることで、効率よく理解させることができる。